

女子学生の好みの服装と性格との関連性

姫路短大

○土井千鶴子

愛知学泉短大

倉橋久子

愛知淑徳短大

土田正子

鳴門教育大

藤原康晴

目的：服装は非言語情報伝達の媒体として重要な役割を果たしており、その伝達内容の一面にパーソナリティ特性がある。これまで、服装を手掛りとした性格特性に関する調査研究を行ってきたところ、服装から他者の性格想定については、服装特性と性格特性の間に明確な関連性を見出すことができた。本研究では、同じ測定尺度を用い、調査対象者自身の好みの服装と性格の関連性を測定し、他者の場合と比較検討した。

方法：調査対象者の性格判定については、11対22項目の性格評定用語を両極の項目とし、SD法により各自の性格を7段階で評定してもらい、服装については自分自身の通学、ショッピング、街着用として好む服装を16対32種の服装評定用語を用いて調査し、それぞれに1～7の得点を与え、尺度の評定値とした。調査時期は平成元年10月、調査対象者は女子学生200名、回収率は100%であった。

結果：通学用などとして好まれている服装はシンプル、無地、ラフなどであり、性格については約55%以上が陽気、活発、感情的、まじめと回答している。対をなす服装毎に、性格尺度上に評定平均値をプロットして、その平均値の違いを算出した。その違いが大きな服装の組み合わせは、個性的／平凡、地味／派手、原色／中間色、大胆／ひかえめであるのに対し、無地／柄物、マニッシュ／フェミニン、花柄／縞柄、ビッグ／タイト、ドレッシー／スポーティな服装は性格上に違いがなかった。また、他者の場合では服装と性格の組み合わせ176セル中117セルに有意差が認められたが、対象者自身の本研究では60セルであり、他者についての服装と性格の関連性に比べ、自分自身についての服装と性格の関連は表出されにくいことがわかった。